
領域名：小児保健看護

報告者：上原和代・宮里暁乃

教育及び実践の課題

平成 25 年度より開講された小児保健看護演習（3 年次後期）では全 15 回を、看護過程演習 8 回、シミュレーション学習 3 回、看護技術演習 2 回、試験他 2 回で構成している。本科目は演習の翌週から小児病棟で展開される受け持ち事例の看護過程を中心とした実習（実習Ⅱ）に向け、学生が演習期間中に習得するのが望ましい、知識、技術、態度を設定し、同一の紙面事例による看護過程とシミュレーションを連動させた学習と病院実習前に習得すべき看護技術の二本立てのプログラムである。平成 25、26 年度に学生に自記式質問紙調査を実施し、シミュレーション学習が実習に役立ったという肯定的な評価を得たが、演習プログラム自体の評価はまだである。

活用した論文の概要

Quality and Safety Education for Nurses（以下、QSEN）とは、医療安全への意識の高まりの中で開発された質と安全の統合された看護師教育のことで、2005 年以降、全米の看護系大学の教育者を対象に質の向上と安全教育改革が普及し、シミュレーション学習の目的とも合致する。QSEN は知識、技術、態度の側面と「患者中心の看護」「チームワークと協働」「安全」「質改善」「Evidence Based Practice（以下、EBP）」「情報学」の 6 つのコンピテンシーから構成される。著者は QSEN の枠組みを用い看護学士課程で展開される小児看護シミュレーションと臨地実習が、QSEN の 6 つのコンピテンシーのどれを学習する機会を提供したかを、学生 15 人、各 210 分間の行動観察により評価し、シミュレーション学習が構造的な学習環境で展開されるのに対し、実習では個人差が大きく、時間数による比較は困難であると報告している。

教育及び実践への活用

本学の小児保健看護演習、同実習Ⅱの学習内容が QSEN の枠組みにどの程度当てはまるか確認した。看護過程は「患者中心の看護（病歴聴取、ケアプランの立案、記録）」、「EBP」が該当した。シミュレーション学習は、設定された場面で「患者中心の看護（患者・家族との関係構築、フィジカルアセスメント）」を経験し、看護過程の机上学習を補完すると共に「チームワークと協働（情報の授受、SBAR の実施）」「安全（安全な環境の維持）」「EBP（資源の活用）」の 4 つのコンピテンシーに該当した。看護技術演習は「患者中心の看護（ケアの実施）」と「安全（感染管理、薬剤管理、薬効の評価、安全な環境の維持）」を重視し、特に実習において学生は薬剤を取り扱わないため 5R の実施を意図的に強化している。演習において、看護過程、シミュレーション、看護技術は 5 つのコンピテンシーと下位項目を相互に補完した。

実習経験は文献のとおり個人差があるが主として「患者中心の看護」「チームワークと協働」「安全」「EBP」「情報学」が該当した。演習で経験しない下位項目である、患者教育、ケアチームとの連携、明快な質問は、臨地での教員のフォローが必要である。なお、3 年次で経験しなかったコンピテンシーや項目については 4 年次の看護統合実習等で経験できると思われた。（表 1）

参考文献

Susan Pauly-O'Neill, Susan Prion, Helen Nguyen (2013) : Comparison of Quality and Safety Education for Nurses(QSEN)-Related Student Experiences During Pediatric Clinical and Simulation Rotations ,Journal of Nursing Education 52(9), 534-538.

表1 QSENコンピテンシーの категорияに基づき観察される臨床スキルと小児保健看護演習・実習Ⅱでの学習内容

QSENコンピテンシー	観察される臨床スキル	小児保健看護演習			実習Ⅱ
		看護過程	シミュレーション	看護技術	
患者中心の看護	病歴聴取	○			○
	患者および家族との関係構築		○		○
	フィジカルアセスメントの実施		○	○	○
	ケアプランの立案	○			○
	ケアの実施		○	○	○
	ケアの評価		○		○
	患者教育の実施				○
	ケアチームとの連携				○
	フローシートおよび看護カルテへの記録				○※1
チームワークと協働	明快な質問				○
	情報の授受		○		○
	SBARの実施		○※2		○
	仕事の引き受け				
	機材の準備			○	○
安全	救急機器の査定				
	感染管理の徹底		○	○	○
	薬剤管理における5Rの実施			○	
	薬効の評価			○	○
	安全な環境の維持		○	○	○
質改善	フォローアップ				
	再評価				
根拠に基づく実践 (EBP)	指針やプロトコルの作成と見直し				
	資源の活用	○	○		○
情報学	電子カルテの操作				○
	電子カルテへの入力				

EBP: Evidence Based Practice

※1 実習記録への記録

※2 報告方法はSOAP形式